瑞浪市化石博物館の展示替え

瑞浪市化石博物館展示替え設計グループ*

Reconstruction of the Exhibition of the Mizunami Fossil Museum, Japan

New exhibition planning group of the Mizunami Fossil Museum

(Abstract)

The Mizunami Fossil Museum changed its exhibition on January of 1980 after five years continuation from its opening. The new exhibition is planned based on following ideas.

1. addition of new specimens and data
2. exclusion of some parts as archeological materials
3. revision of some parts
4. transfer and rearrangement of some corners
5. change in least expence and trouble

The process of the planning and enforcement of the new exhibition is synthesized. Effect of reconstruction of the exhibition and review of the process are also discussed.

1. ま え が き

瑞浪市化石博物館は1974年5月1日に開館した博物館で，その展示のメイン・テーマは「瑞浪市を中心とした地域の，自然の変遷」である．他にサブ・テーマ，教育ひろば，屋外展示を含み，展示室は336.69m²，一室構成である．

開館当時の展示について，その設計・施工のプロセスについてはすでに述べた（瑞浪市化石博物館展示設計グループ，1975，糸魚川，1979）．その後，時間の経過と共に，多くの問題が現われてきた．第1に，時間的な制約・経験不足などによる，設計・施工の不備である．第2に，研究が進み，標本資料の増加・新事実の発見があって，展示内容に多少の変更を加える必要が生じたこと，第3に，破損・汚れが生じたことなどである．

展示の手直し・補修は時々に加えられていたが，開館満五年を迎えて，展示替えが計画され，予算措置もできたので，1979年末～1980年初めに全面的な改定が実施されることになった．そして，1980年1月5日に新展示として一般に公開された．

前回と同様，展示替えについて，その経過を記録し，今後の資料とすることにした．同じような問題を抱えておられる博物館，新しく開館を計画されている機関など，関係される方々の参考となれば幸せである．本稿を草するに当り，展示の実施設計・施工にあたられた㈱丹青社の，里見親幸氏はじめスタッフの方々に心からお礼を申し上げる．

---

* 糸魚川淳二（名古屋大学理学部地球科学教室　執筆責任者）　渡辺俊典（元館長）　奥村好次（現学芸員補）　水垣文利（前館員）　西本博行（土岐高等学校）　瑞浪市化石博物館気付　c/o Mizunami Fossil Museum
1981年10月5日受理

2. 展 示 替 え

a. 基 本 方 針

展示替えの基本方針は次の通りである.

i 新しい資料を加える. とくに, 今までより, **多くの標本**を展示に使用する.

ii 瑞浪陶磁資料館（東濃西部歴史民俗資料館, 1980年4月, 北に隣接して開館）が設立されるので, 考古の部分を除き, 再構成する.

iii 誤りの訂正. 不備の追加.

iv 移動・再構成を中心として考え, いくつかの新設を加える.

v 最小の手数と経費によって, しかも, **変った**という印象を与えるよう考慮する.

b. 設 計 と 実 施

基本方針に基づいて, どのように変えるかオリジナル・プランがつくられた. まず, 次のような大わくの変更が考えられた.

i. 新設 日本のサメ・世界のサメ, 化石のいろいろなど.

ii. 変更・改定 貝類のように全面的に作り変えたものを含め, 多数に上る. 主なものとして, 新生代の日本, 地のめぐみ, 瑞浪の自然, 岐阜県の地質と化石などがある.

iii. 移動 「その頃の海と陸」と「まわりの様子」の入れ替えを初め, 新設・廃棄に伴ない, 多くを移動した. 最初の展示の時に可変のユニットとしたことが効果を発揮した.

iv. 廃棄 「現在の瑞浪」のうち,「人間の残したもの」と「人間の生活」, サブ・テーマの古生態. これらはむしろ発展的解消と表現した方がよい.

この線に沿って具体化が進められ, 一つ一つについて検討された. 同時に, それに必要な標本・資料がチェックされ, 一部は採集, さらに寄贈・交換・寄託をお願いすることになった.

各々のユニットにおける具体的な変更項目は次のようである.

メイン・テーマ

A. 瑞浪の化石と地層

A－1. 地質柱状模型 ラベル・表示の変更. ナレーションの短縮――5分20秒を3分に.

A－2. デスモスチルス パネル修正. 陸の生物（哺乳類）にあった頭骨（整形前のもの）をこゝへ移す.

A－3. 地質・地形模型 剝落部分の補修. 足付きラベルの固定.

A－4. その頃の生物

くじら イルカの歯を中心に, 標本を追加. ここにあった魚を別項として新設する.

魚 新設. パネルの図の向きを入れ替える（標本と同じ方向にする－Pl. 64, figs. 3, 4）. 耳石を加え, レンズを使って見るようにする.

サメ パネルの上下入れ替え. 瑞浪のサメは標本を増し, 上下の2層準による群集の違いを展示で示す. 現生のサメは標本の追加・入れ替え. ここに日本のサメ・世界のサメ（A－5）を新設し, 時代的・地域的分布を考慮した排列をする.

貝類 つくり替え. 標本をふやし, ユニットを大きくする. 上下に区分しないで, 左から右へ, 古い方（下位）から新しい方（上位）へ展示する.

微化石 変更せず.

哺乳類 標本・パネルの追加.

植物 標本の追加・再構成. 珪化木をはずし, 動線用のボックス（ロープ・オフの役目をす

る）に移した．

B．まわりの様子（岩村と可児）　アネクテンスゾウの上下の顎をドッキングさせ，ここに展示．標本の追加とパネルの一部変更．

C．その頃の海と陸（古環境・古景観・古地理）　「古環境・古水温の変化」のパネル変更．古地理図を新しくする．古景観図のうち，「デスモスチルスの浜辺」を訂正（鈴木繁男氏による）．

D．古瀬戸内海　写真・パネル（分布・古地理図）の入れ替え．標本追加・入れ替え．

E．新生代の日本　「その頃の日本」を改定．中新世について標本を追加．2ユニット増設して鮮新世～更新世の標本を展示．

F．瀬戸湖と古木曽川　標本の入れ替え．土岐砂礫層の礫の標本追加．古景観図の手直し．

G．コハクと昆虫の世界　コルトンに倍率を入れる．

H．地のめぐみ　「人間の残したもの」，「人間の生活」，「ウランと亜炭」を再構成する．石器・土器・陶磁器については，原料と製品を関係づけて展示する．

I．瑞浪の自然　写真パネルによる自然（地質・地形・動物・植物）の展示．パネルは入れ替え可能．全体の形は瑞浪市の形をシンボライズ．鳥の鳴声は前と同様入れる．

J．**学習ひろば**　教育ひろばを改称．パネルを1つ変更．「化石にさわって見よう」のコーナーを「化石に名前をつけよう」と変え，松ヶ瀬の学習地で産する化石を展示し，そこで採集された標本を比較して，名前をつけられるようにする．ミニ・ガイド用のボックスの1つを改装し，特別ミニ展示をできるようにする（現在はカイロウドウケツの化石と現生標本を比較展示中）．

サブテーマ

K．化石と現生の対応　標本を整理し，アレンジを変える．パネルを追加（進化と系統――脊椎動物の系統図を入れる）・訂正．

L．岐阜県の地質と化石．　ユニットを2倍近くに増やす．標本を追加・変更したが，とくに，熊石洞の化石（更新世）・岐阜県の鉱物に重点をおいた．パネルもそれに伴って増設．地質図は変更の予定であったが技術的な問題があってそのままとなった．

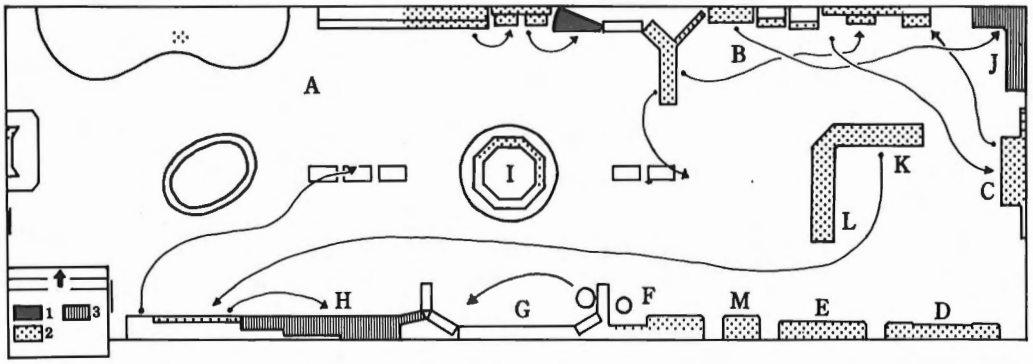
M．化石のいろいろ　さまざまなタイプの化石を集めて比較・展示．古生態のコーナーのフナクイムシ・不整合の標本はここへ移された．瑞浪のものだけでなく，日本・世界各地の標本を使用．

N．瀬戸内海　標本の入れ替え・追加．とくに，内湾性貝類（いわゆる大陸沿岸系種を含む）を追加．

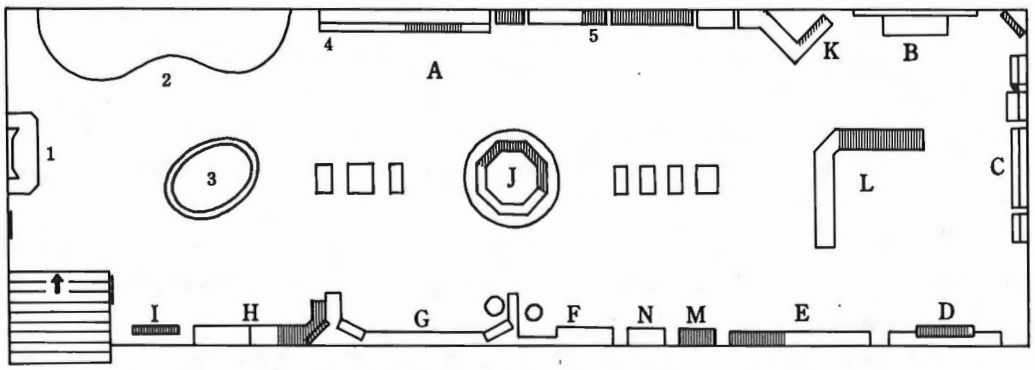
以上の他，手を加え，あるいは新しく追加したこととして次の点があげられる．すなわち，i．カーペットの張り替え，ii．褪色のぬり替え，iii．破損の修理，iv．年代表の手直し，v．踏み台の新設（サメ・貝のコーナー），vi．前の展示から除外した珪化木・壺（「人間の生活」の塩釉雌雄）をボックスに入れ，動線構成に使用　などである．展示標本数は約3000点，前の展示のほぼ2倍の数である．

第1図は旧展示の配置とそれの変更の様子（作り替え・削除・移動など）を示し，第2図は，新展示の配置を示してある．とくに，新設・増設部分を区別した．また，これらの変更の状況は Plate 65－68 に，新旧を対照させて示してある．

なお，工費は1099万5000円，現地における作業は1979年12月12日より始まり，12月27日に完



第1図　旧展示平面図　Fig. 1.　Plan figure of the old exhibition.
A　瑞浪の地層と化石，B　その頃の海と陸，C　まわりの様子，D　古瀬戸内海，E　その頃の日本，F　瀬戸湖と古木曽川，G　コハクと昆虫の世界，H　現在の瑞浪（以上メイン・テーマ）；I　教育広場；J　古生態，K　ウランと亜炭，L　岐阜県の地質と化石，M　瀬戸内海（以上サブテーマ）．
1　全く新しく作り直した部分，2　作り変えた部分，3　削除した部分，矢印は展示の移動を示す．



第2図　新展示平面図　Fig. 2.　Plan figure of the new exhibition.
A　瑞浪の地層の化石，1　地質柱状模型，2　デスモスチルス類，3　地質と地形模型，4　その頃の生物（海の生物，陸の生物），5　日本のサメ・世界のサメ，B　まわりの様子（岩村と可児），C　その頃の海と陸，D　古瀬戸内海，E　新生代の日本，F　瀬戸湖と古木曽川，G　コハクと昆虫の世界，H　地のめぐみ，I　瑞浪の自然（以上メイン・テーマ）；J　学習ひろば；K　化石と現生の対応，L　岐阜県の地質と化石，M　化石のいろいろ，N　瀬戸内海（以上サブテーマ）．
縦しまは新しく作製した部分を示す．

了・受渡しとなった．そして，1980年1月5日，新展示は一般公開された．実施設計・施工は㈱丹青社によっている．

d．効　　果

展示替えの効果が一般の入館者にどうとらえられるかは，判断のむつかしい所である．一見して，それ程変ったという印象はなく，少し広くなったという程度であるが，一つ一つについて丁寧に見ると，変った・新しくなったと受けとられているようである．また，間接的な効果であろうが，見学時間が長くなったことがある．見るものが多くなり，また，内容的に少し高くなったことによるものと思われる．後のことは，親子の対話がよく見られるようになったことにも反映している．子供が質問し，親が答えるケースが多くなったということである．

可能な限りオープン展示にするという基本は最初から考えられ，実行されて来た．一方，5

年間に，いくつかのトラブルも発生した．今度の展示替えでも，この基本精神は変っていないが，小人数のスタッフで「保守」をしなければならない状況の下，いくつかの展示物にはカバーをかけることになった．多少後退した感はあるが，止むを得ないことである．同時に，そうしなくてもよい状況をつくり出す努力は忘れられてはいない．

e．反　　省

二度目の経験であるので，全体としてはまずスムーズに進行したと思われる．ただ，時間の余裕がなかったため，設計から実施にいたる間に校正が不足したこと，実施において急ぎすぎて，たとえば標本の固定が丁寧に行われなかったことなどが反省される．また，ラベルの位置にも関係することだが，ケースの中に影になる部分が生じた．ライティングと関連させて，配慮すべき点であった．

1つ1つについて細かく見れば，いくつかの欠点が認められる．まとめると次のような点である．

i．標本が足りない（くじら，岩村，古瀬戸内海など）
ii．標本が多すぎる（岐阜県の地質と化石）
iii．パネルの誤・不備（哺乳類，進化と系統，古環境の変遷，その頃の海と陸の古地理図，古瀬戸内海の分布図・古地理図など）
iv．パネルの字が多すぎる（地のめぐみ，岐阜県の地質と化石）
v．見にくい所がある（くじらのあご，サメの歯の小さいものなど）
vi．ものとパネルの不一致（化石と現生の対応），ことばと表示の不一致（地質柱状模型）
vii．説明不足（ルーペ，ふみ台，顕微鏡，同定用標本など）
viii．こわれやすい標本の処置（陶土）

3．あ と が き

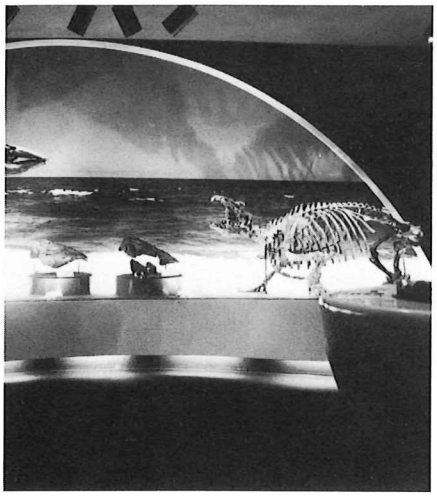
展示は博物館の機能のうち，直接一般市民と結びつくという点で重要な意味をもっている．博物館の「顔」といわれる所以である．一度作製した展示をその後どう維持するか，あるいはどう変えていくか，また，いつ全面的に改変するか，いろいろ問題があろうと思われる．瑞浪市化石博物館では，本稿で述べたように，5年で展示を変えたが，今後はどうするか，たとえば，次の展示替えはいつかという問題については現在では白紙である．社会の動きが速くなっている昨今，近い将来にそれへの対応を迫られることになるだろうが，日常的な博物館活動の中で，どうすべきか考えて行きたい．

参 考 文 献

糸魚川淳二（1979），博物館だより．科学ブックス（共立出版），220 P．
瑞浪市化石博物館（1980），瑞浪市化石博物館　案内パンフレット．
————（1980），展示解説——瑞浪の化石のはなし——，付録．8 P．
瑞浪市化石博物館展示設計グループ(1975)，瑞浪市化石博物館の展示設計．瑞浪市化石博物館研究報告，no. 2，61-74.

Plate 65

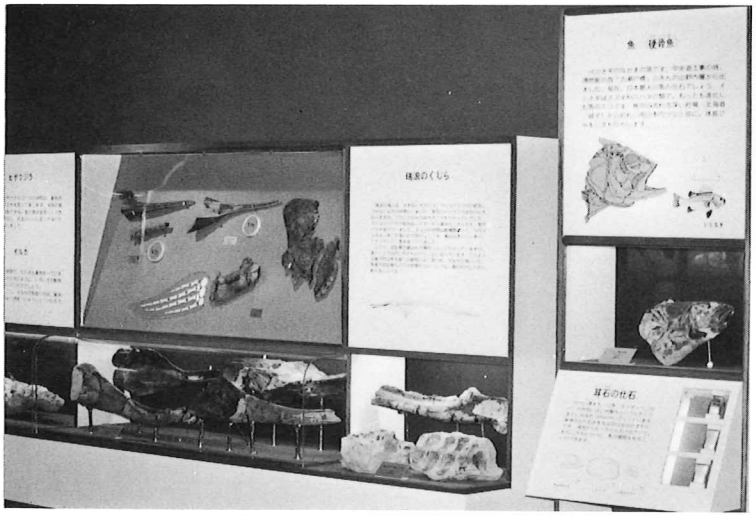
Fig. 1. デスモスチルスの頭骨が2つ並んだ新展示
Fig. 2. 新しくなった展示室
Fig. 3. くじら・魚の新展示
Fig. 4. 旧展示の同じ部分
Fig. 5. 学習コーナーの新展示．松ヶ瀬学習地産の主な標本を展示して同定に便利をはかってある



1



2



3



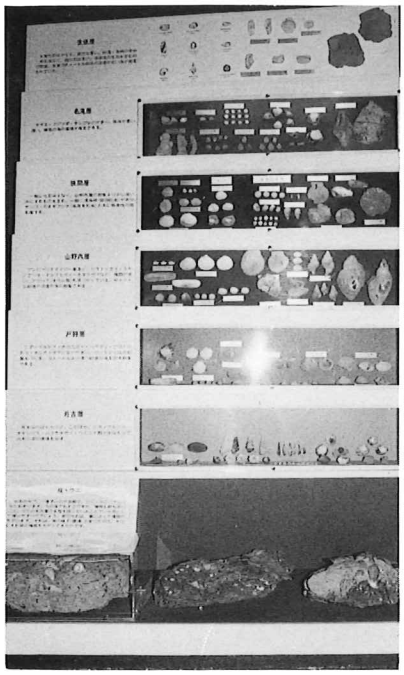
4



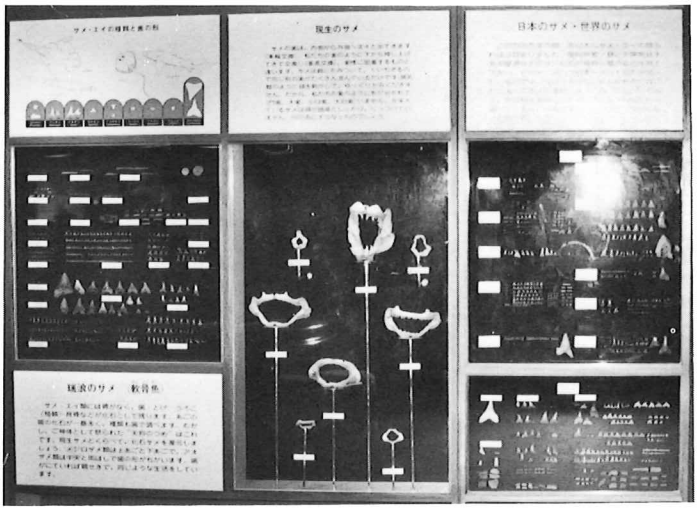
5

Plate 66

Fig. 1. 貝類化石（旧展示）
Fig. 2. 同（新展示）
Fig. 3. サメの新展示
Fig. 4. サメ・貝類の旧展示
Fig. 5. 岐阜県の地質と化石（新展示）

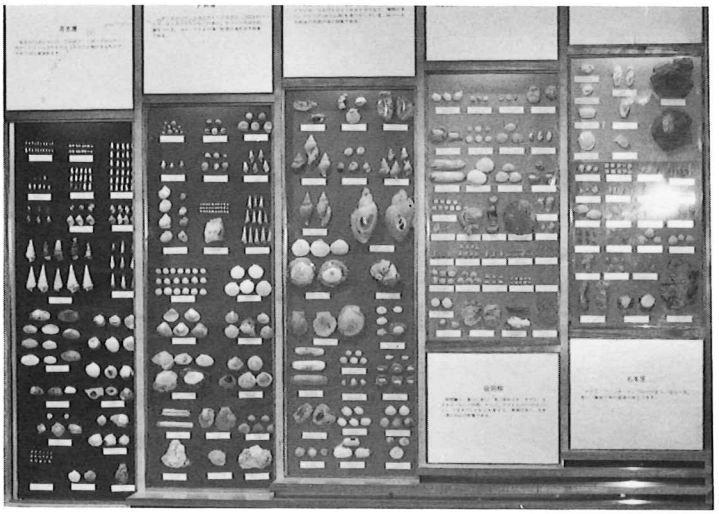


1



2

3



4





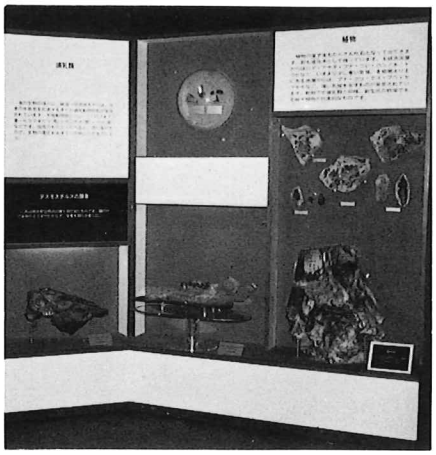
5

Plate 67

Fig. 1. 哺乳類・植物の新展示
Fig. 2. 哺乳類・植物の旧展示
Fig. 3. 岩村と可児（新展示）
Fig. 4. 同上（旧展示）
Fig. 5. 学習ひろばのミニガイドボックスを改良したミニ展示
Fig. 6. 前の姿．２つのうち１つは残してある．



1



2


岩村
可児
アネクテンス属

3


まわりの様子・岩村と可児

4

5

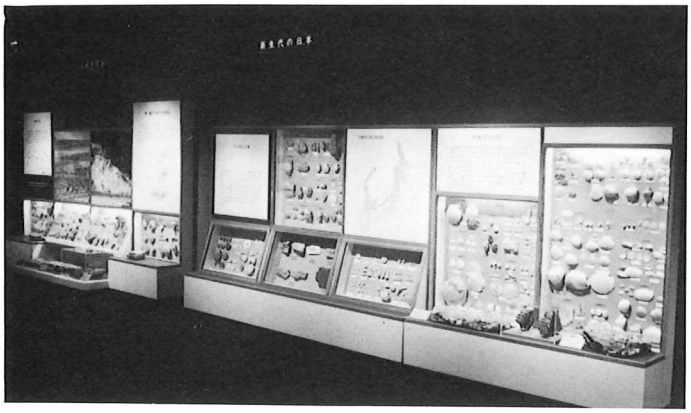

カイロウドウケツ
「死しては骨も 火と同じう寸(結句)」
生きては対する「死めのは一緒」。夫婦仲のことを
作者自ら(sorry)ううりの契り、といいます
カイロウドウケツ
化石と現生標本

6


ミニガイド

Plate 68

Fig. 1. 古瀬戸内海・新生代の日本（新展示）
Fig. 2. 同上（旧展示）
Fig. 3. 瀬戸湖と古木曽川の新展示
Fig. 4. 同上の旧展示
Fig. 5. 地のめぐみ・瑞浪の自然（新展示）



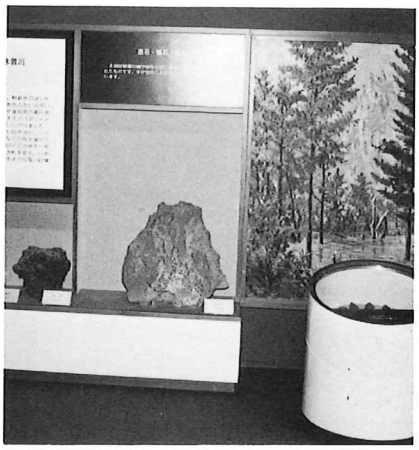
1



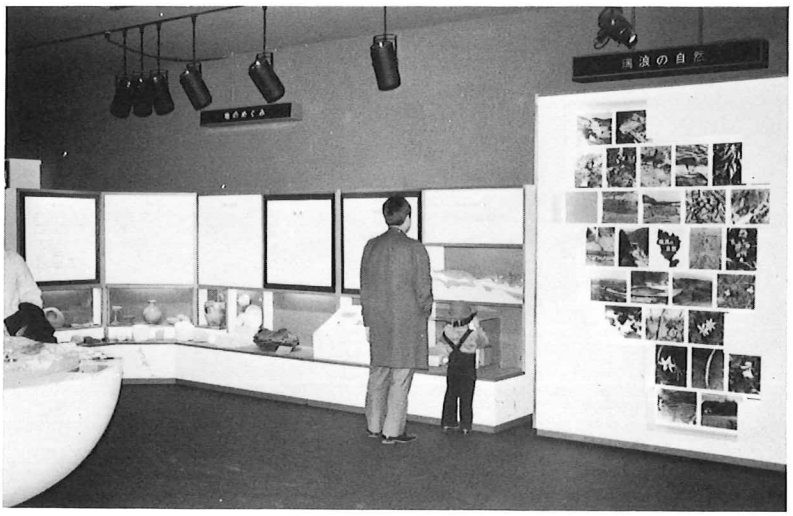
2



3



4



5